

全国公立中高一貫校での書写書道の運用概要

全日本高等学校書道教育研究会 研究部

1 アンケート調査の目的について

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編』（*平成31年3月）の第1章・第2節 芸術科改訂の趣旨及び要点、1 芸術科改訂の趣旨（3）芸術（書道）において次のように示されました。（下線部は作成者による。）

○芸術科（書道）においては、書の文化の継承と創造への関心を一層高めるために、書の文化に関する学習の充実を図るとともに、豊かな情操を養い、感性や想像力を働かせながら考えたり判断したりするなどの資質・能力の育成等に重点をおいて、その充実を図ってきたところである。

○一方で、書の伝統と文化を踏まえながら、生徒が感性を働かせて、表現と鑑賞の相互関連を図りながら能動的に学習を深めていくことや、書への永続的な愛着心を育むこと等については、更なる充実が求められるところである。

○今回の学習指導要領の改訂においては、これまでの成果を踏まえ、これらの課題に適切に対応できるよう改善を図っていくことが必要である。

これらの成果と課題を受け、芸術科（書道）における改訂の具体的な方向性については、次のように示されている。

・感性を働かせて、能動的に、表現を構想し工夫したり作品の意味や価値を見いだしたりする学習となるよう、内容の改善を図る。

・国語科書写との円滑な接続を図るとともに、生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化についての理解を深める学習の充実を図る。

・表現と鑑賞の学習に共通に必要な資質・能力を〔共通事項〕として示す。

以上のことから、中学校国語科書写との円滑な接続を図りながら、高等学校芸術科書道の授業改善や内容の充実を目指し、全日本高等学校書道教育研究会研究部では、全国の公立中高一貫校（141校）の書写書道ご担当の先生に、書写書道の運用についてのアンケートを送付させていただきました。

年度初めのお忙しいところご協力いただきまして誠にありがとうございました。

以下、ご協力いただきました回答（13校）の内よりご報告させていただきます。

〈アンケート調査〉

■「中学校3年次に高等学校芸術科書道Ⅰの内容について授業で取り扱っていれば、その内容の概要をご記入ください。」

・3学期の小作品制作において、温かい書、さわやかな書、パワフルな書の作品制作の参考に、古典を3つほど紹介している。

・郷土にある「多胡碑」について知り、臨書する。

・自分が選んできた語句で漢字仮名交じり書をカレンダーに書く。

- ・探究的な学習の一環として、楷書における整齊美について取り上げる。
- ・書を揮毫することにより、書写に関心を持ち、自ら進んで書の文化に関わろうとする力をつける。

■「芸術教科の運用方針や、貴校独自の芸術科書道の履修学年の設定などがありましたらご記入ください。」

- ・4年次に書道Ⅰが必修で、5・6年次は選択になり、書道Ⅲまで履修することができる。

■学校独自の書写書道の行事について

- ・書き初め展への出品（中学校国語科書写）
- ・卒業制作展（高等学校芸術科書道）
- ・文化祭時の書道パフォーマンス

■「国語科書写および芸術科書道の学習活動の充実に向けて、貴校の課題や成果、今後の教育課程編成の方針など、ご記入ください。」（自由記述）

- ・高校生がクラス展開授業のため実施が難しいが、中高授業交流（中学生の授業を高校生が行う）がもっと行えればと考えている。中高一貫校だからできることを考えていきたい。
- ・書道教員は週1日の勤務であり、書写教育に関わることの少ない勤務態形である。
- ・中学校3年生においても年間17時間を確保している。
- ・後期課程の芸術の中に、書道が設定されていないため、中学校書写でその内容に触れている。
- ・高校芸術科書道教員が、中学書写の授業を担当できることは大きな利点ではあるが、2、3年次において、予定時間を確保することが難しい。（中学校国語科書写）
- ・スーパーサイエンスハイスクールとしての特色ある教育課程において、3年次の学校設定科目履修が少なく、不開講になる年度がある。（R6不開講、R7開講で5名）

〈アンケート調査を踏まえて〉

- ・中学校国語科書写の学習において、高等学校芸術科書道で取り扱う古典等を取り扱っている。またその中で、漢字仮名交じりの書を通して学習が展開されたり、学校の所在する地域ならではの素材を生かしたりした取り組みが展開されている。
- ・中学校の中での探究的な学習の一環として芸術科書道に関わる視点を設け、学習を行っている。
- ・専任教諭が配置されている場合、例えば中学校3年生においても、国語科書写の時間を多く確保することができている場合もある。一方で、芸術科書道の専任教諭が配置されていない等教員の勤務形態によっては、芸術科書道の教員が国語科書写の内容に関わるのが難しい等、国語科書写と芸術科書道の円滑な接続を図ることに課題がある場合もある。

今回の調査では、アンケートの調査の回答の回収において不具合があり、回答数が少数に留まった。今後、回答の回収方法やアンケート調査の依頼の時期、また質問内容等も含めて再度検討を行い、今後国語科書写と芸術科書道との円滑な接続や、中高一貫校の書写書道教育のあり方などについて協議を行う際に活用できる有益なものとなるよう、調査を継続していきたいと考えております。